

こんにちは。円山動物園の「幅崎」です。理科の基本は、異常現象の発見です。いつも自然をしっかりと見ておけば、わずかな違いも気づくものです。今回は、「ちょっとした変化に気を配れば思いがけない発見ができる。」です。



するのか、途中で水に入ります。しばらくすると何もなかったようにおとなしくなりました。究極のエコ生活を送っている「は虫類」ですが、エサと脱皮の時は動く



不思議だけれどもほとんど動きのない「は虫類」、気持ち悪がって寄りつかない人さえます。しかし彼らは水辺から離れることが可能となった画期的な動物なのです。彼らは乾燥という危険から水分の蒸発を防ぐために角質でからだの表面をおおうことに成功したのです。かつては恐竜などが栄えましたが、今生き残っているは虫類もその流れをくむものです。は虫類の特徴の一つに脱皮がありますが、すべてのは虫類で同じように見られるものではありません。ヘビの表皮は、2つの層に分かれており、からだが大きくなるにつれて外側の死んだ角質層を周期的に脱ぎ捨てて、内側の生きている部分のみが生き残っていきます。これが脱皮です。上の写真の「シマヘビ」、からだの途中で色が変わっているのがわかりますか。(印刷でわかりにくいときはネット上にPDFファイルがあります。)
(仮HPは<http://www.hi-ho.ne.jp/haba>) 全身を周りの石や木にこすりつけ、からだをくねらせて、まるでストッキングを脱ぐように表皮を裏返しに脱ぎ捨てていきます。脱いだ部分をきれいにするのか滑りをよく



脱皮の兆候

いつも同じように見えるヘビたちですが、脱皮前には目が乳白色になり、全身のうろこも白く濁って汚れているように見えるようになります。写真は、脱皮前と思える「オオアナコンダ」と普通の状態の「アオダイショウ」です。

明らかに目のようすが違います。はちゅう類館で白い目のヘビを見たら、数日後にもう一度来て、見てください。澄んだ目とつやつやと生まれ変わったようなヘビたちを見ることができるはずですよ。その時、飼育舎のかたすみに脱ぎ捨てた抜け殻を見つけてくださいね。



今回の写真もすべて、一般のお客様の通る「観覧通路」から、しかも「開園時間帯」に撮影したものです。みなさんも全く同じものを観察することができるのです。1学期も1ヶ月ちょっと。定期テストが気になっている時期ですが、夏休みへ向けて「自由研究のネタさがし」、動物園はパワフルですよ。この夏は、カルチャーナイトのほかにも開園時間延長があり利用しやすい環境が整っています。また、江別・札幌から「山本・幅崎」の教員コンビが教育普及係が皆さんの学習サポートにあたっています。どんどん利用してくださいね。では、また。「ネット配信に切り替えました。この情報が見られない人は学校に相談してください。すぐに対応してくれます。」